

教育環境評価 2011 <学部学生の自由記載欄の要約>

調査名	「大学運営および教育改善」のためのアンケート
目的	2006年（平成18年）に実施した質問紙を用いて、2006年以降、教育環境の改善がみられるかを明らかにする。
方法	<p>調査期間：平成23年1月～平成23年3月</p> <p>調査対象：学部学生（1～4年次）324人</p> <p>調査方法：無記名自記入式質問紙調査 質問紙を在学生に直接配布し、所定の回収ボックスで回収。</p> <p>回収数：193人（59.6%） （一年次26人、二年次58人、三年次65人、四年次44人）</p>
結果 （自由記載欄より）	<p>自由記載欄の要約結果を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習に関する教員への相談について、話しづらさ、メールでのしづらさがあった。</li> <li>2. 担当教員への相談に関しては、忙しそうや相談しにくいなどの理由から相談しない学生がみられた。相談する学生では、学生生活や進路が主な内容であった。グループ交流会は、メンバーや担当教員がお互いを知る良い機会と捉え、楽しく参加していた。担当教員に期待する役割については適確なアドバイスやカウンセリング、進路相談、学習支援などがあった。</li> <li>3. 学生生活や就職相談体制については、余り学生に周知されていなかった。学生相談室の利用者は少なく、理由としてプライバシーの漏洩の心配、相談室の場所が不適切、相談の仕方が不明瞭、相手が教員、などがあった。</li> <li>4. 学生の経済面への援助に関する要望には、プライバシーへの配慮、授業料の免除や減額基準の緩和、実習による負担感への支援、様々な奨学金の紹介などがあった。</li> <li>5. 本学のカリキュラムについて、わかりづらい、眠くなる、課題が多いなど教育方法の改善を求める科目や、基礎医学や看護演習科目など時間数の増加を求める科目がいくつかあがった。履修登録について前期・後期分けて登録したい、授業を受講後選択したいとの声があった。</li> <li>6. 実習については、実習先に対し経済的負担から近隣やバス通学、駐車場利用の要望があがった。</li> </ol>

結 果 (自由記載 欄より)	<p>7. 国試対策について、カリキュラムに組み込んでほしい、対策がよく分らないとの声があった。</p> <p>8. 大学の施設、設備、運営法について、図書館のエアコンの夏冬の使用、自習スペースの拡大、情報処理室では夏休み期間の利用、インターネット利用、演習室の数を増やすなどの要望があった。</p> <p>9. 本学に関する将来について、助産、がん看護などの専門看護師への進学、また、残したい本学の長所としては、ハワイ研修や島嶼看護、別科助産などのカリキュラムに関することと、学生同士の交流のしやすさがあった。</p>
----------------------	--